第10回組織開発ラボラトリー①

複雑性に働きかける
―不確かな状況でアクションを実行していくために―　Working with Complexity

担当者	クリス・コリガン氏 ケイトリン・フロスト氏
概要	複雑性とは、組織やコミュニティなどのシステムにおいて、多様な人々がいて、不確実で将来の予測が難しい状況を指します。そのような状況で、当事者の対話を通して生成される、将来に対するアクションの計画と実行を促進していくためには、複雑性の考え方を理解することが有用です。このワークショップでは、クリス・コリガン氏がカナダを中心に実践している２日間プログラムをベースに実施されます。 ボランティア組織、コミュニティ、社会変革やソーシャル・イノベーション、持続可能な開発に取り組んでいる方など、複雑性にどのように働きかけるかを理解したい実践者にお勧めです。また、企業を中心に組織開発に携わる方で、複雑性の考え方の基礎を学ぶことを通して、自らの思考や実践の幅を広げたい方にも適しています。 ※このワークショップは通訳付きで行われます。
日程	2019年6月7日（金）～6月8日（土）の1泊2日 6月7日（金）10:00開始（夕食後のセッションもあります） 6月8日（土）17:00終了
定員	30名
会場	南山学園研修センター（研修・宿泊） 〒466-0834 名古屋市昭和区広路町隼人30 TEL:052-837-6466
参加資格	宿泊制プログラムのため、下記施設にご宿泊いただきます。また、グループでの体験学習方式で進めるため、全日程に参加いただく必要があります。全日程にご参加いただけない場合は、参加をお断りします。
受講料	受講料77,700円＜税込＞ ※第10回組織開発ラボラトリー②（6/9）と同時にお申し込みいただいた場合のみ、セット割が適用されます。（セット割受講料108,000円） 滞在費7,900円＜税込＞（シングル利用、宿泊費、6/7昼食と夕食、6/8朝食と昼食を含む） ※滞在費は受講料と同時にお振込みください。 ※室数に限りがありますが、6/6（木）の夜（１泊朝食）、6/8（金）の夜（１泊朝食）も事前にお申し込みいただけます（１泊朝食で3,900円）。詳しくはお申し込み後にメールでお送りする「受講のご案内」でお知らせします。 ※学割の適用はありません。
メルマガ 講座報告	コーディネーター　中村和彦　記 講師を海外から招へいし、組織開発のワークショップを開催する企画を、当センターでは「組織開発ラボラトリー」と呼んでいます。今年度は、共催としてArt of Hosting Nagara 2019呼びかけ人チームと一般社団法人サステナビリティ・ダイアログさまにご支援いただき、２日間の宿泊ワークショップ「複雑性に働きかける」と、１日の「コンテナをホストしホールドする」を開催しました。 講師は、クリス・コリガンさんとケイトリン・フロストさん。カナダのバンクーバー郊外、ボーエン島に住んでいる、自然を愛するご夫婦です。クリスさんは「対話型組織開発」の13章を執筆されています。 ３日間通しでご参加いただいた参加者29名の皆さんにとっては、講師のお２人の解説やワークを通して、複雑なシステムとともに働くための視点や考え方を深く学んでいただく機会になったと思われます。扱われた内容は、 ２日間のワークショップ「複雑性に働きかける」 ・カネヴィン・フレームワーク（スノーデンが提唱） ・複雑性の中でセルフとともに働きかける ・シンプルルールを見定める ・アダプティブ・アクションと制約：ＣＤＥモデル（コンテナ、違い、やりとり） １日のワークショップ「コンテナをホストしホールドする」 ・コンテナとは？ ・ＡＢＩＤＥモデル（スノーデンが提唱） などです。１日参加となった皆さまには、時間の制約からやや消化不良気味となった方もいらっしゃるかもしれません。今回の３日間で紹介された知恵や考え方のベースはArt of Hostingにあります。是非、さらなる探究の旅を続けながら、ともに学んでいきましょう。 最後に、３日間のワークショップでエネルギッシュにホストしてくださったクリスさんとケイトリンさん、そして、２人のメッセージを日本語でわかりやすく（そして日本語から英語は同時通訳で）伝えてくださった、東千恵子さんと福島由美さんに感謝申し上げます。さらに、サステナビリティ・ダイアログの代表の牧原ゆりえさんには、資料の事前の監訳やワークショップ当日のグラフィック（受講者の皆さんの学びがさらに豊かになりました）に多大なサポートをいただきました。他にも多くの皆さんや事務局のご支援、ご協力で、チームとして今回のワークショップを運営することができました。本当に